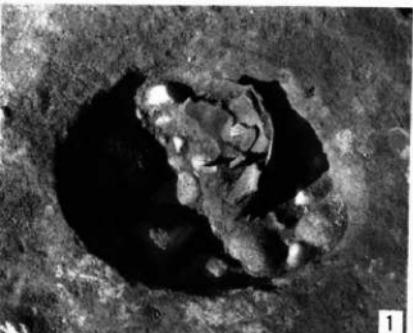


住居跡・炉

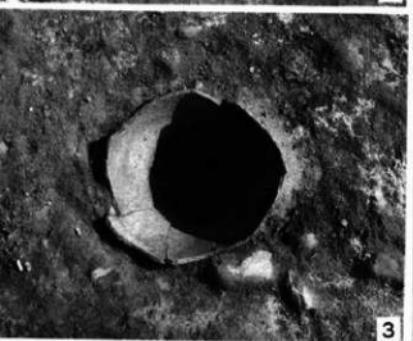
1. 19号住居跡
2. 21号住居跡
3. 23号住居跡
新炉
4. 23号住居跡
旧炉
5. 24号住居跡
6. 31号住居跡
7. 32号住居跡
8. 34号住居跡



1



2



3



4



5



6



7



8

I 区

古墳

1. 掘出状況（南西より）

(周溝の古墳本体側面に葺石と思われる砾が見られた。また、周溝内の4ヶ所に土器の集中区がある。)



1

2. 葦石状砾の崩落石除去後の全景（ほぼ原位置にあるもののみ残す。南西より。）



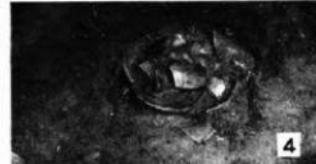
2

3・4. 周溝内土器集中

1. 土器出土状況



3



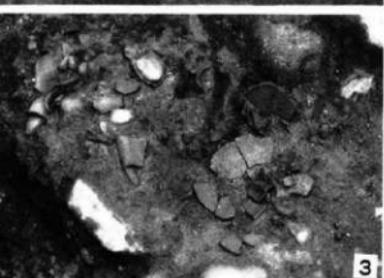
4

1～6. I区古墳



1

2



3

4



5

6



7

7. II区溝2、29号住跡（東より。溝2は29住を切る。溝2内からは古墳時代の遺物の出土があり古墳周溝の西端と思われる。この上層には土壠の土層が観察できた。）

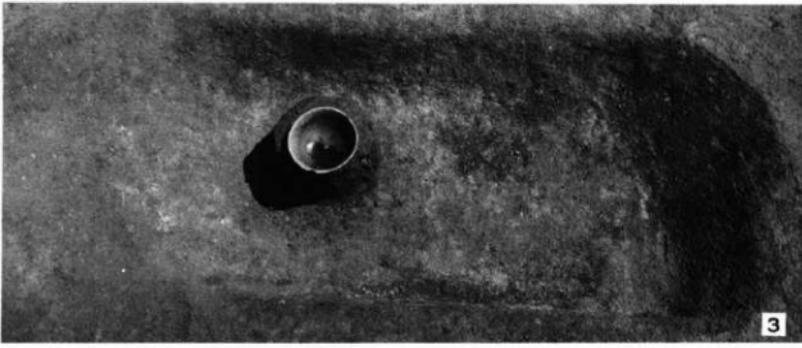
1. IV区溝2・29号住居跡（西より。上部に見える磚の多く入った土層が、土壘の土層。）



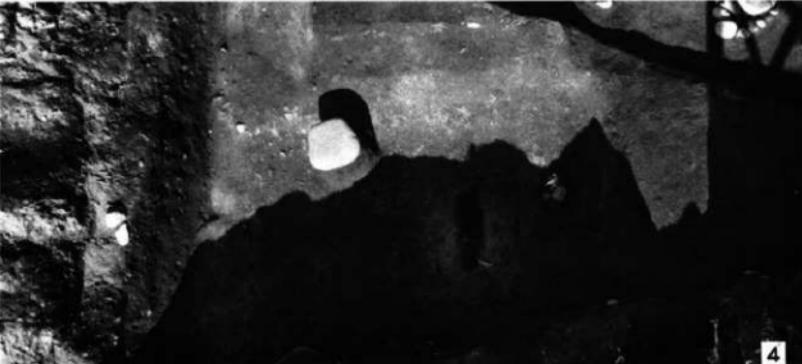
2. III区土坑2
(古墳時代)



3. II区土坑6
<土坑墓> (平安時代。完形の杯が1ヶ
上部から検出された。)

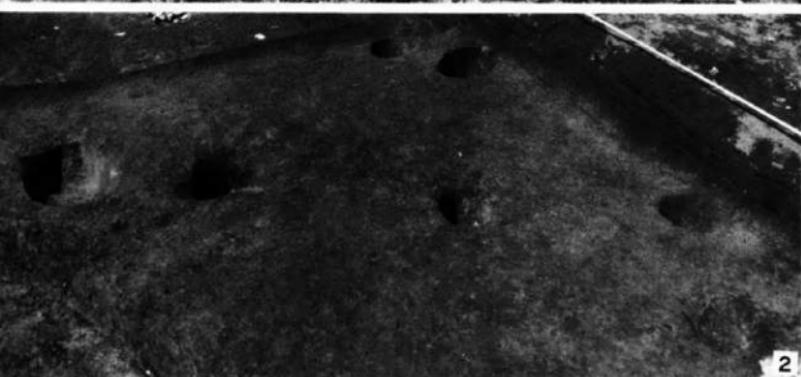


4. IV区壁穴1 (南より。
常滑系の甕が出土し
てあり、13C後半～
14C頃のものと思わ
れる。この上部に土
壠がのっている。中
央に見える平石は礎
石として使用され
た可能性もある。)





1. IV区整穴1
(西より、平石は床面
よりも浮いてい
る。柱穴は地山の周
囲を山状に削り出し、
そこに柱穴を掘って
いる。)



2・3. II区柱穴群1
<中世> (建物跡
が2棟重複した
その一部と思わ
れる。)

2. (南西より)

3. (北より)



3

土壌土層

1. 言区南西部分
土壌土層（東より）

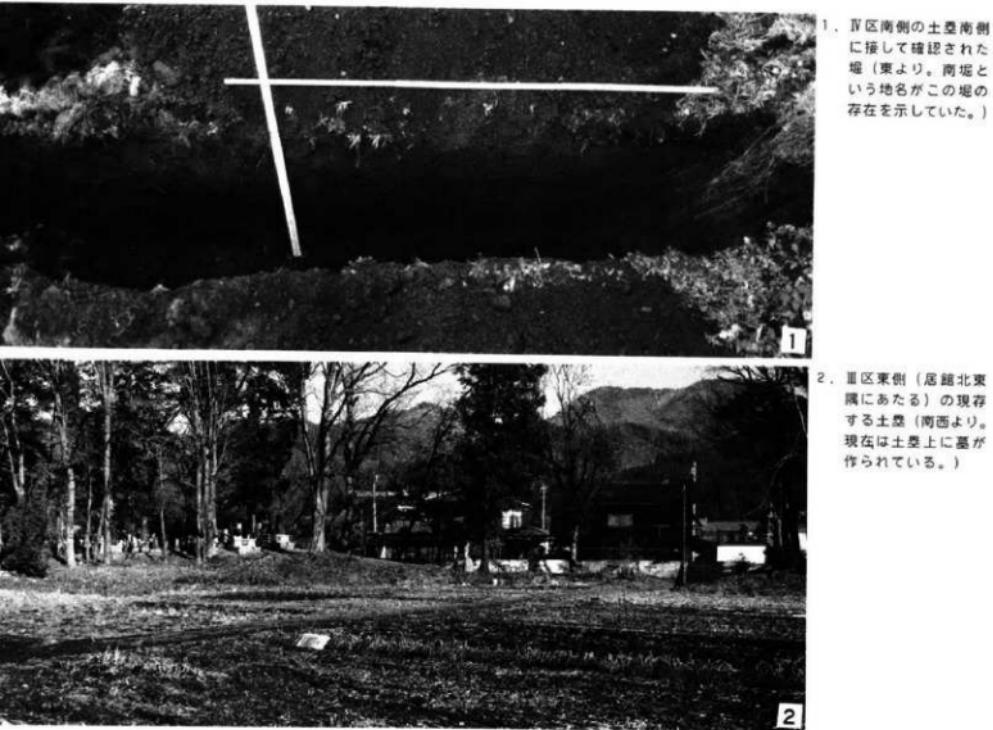


2. 言区西侧
土壌土層（東より）



3. 言区北西部
土壌土層（小屋右側
の山状の地形が現存
土壠の一部である。
礫層部分が土壠の積
み上げ土で、左側の
礫層は土壠の崩落土
層。東より）





1. Ⅲ区南側の土壘南側に接して確認された堤(東より。南堀という地名がこの堤の存在を示していた。)

2. Ⅲ区東側(居館北東隅にあたる)の現存する土壘(南西より。現在は土壘上に墓が作られている。)

古城遺跡出土遺物



3. 15号住居跡出土の勾玉状石製品



4. 弱生時代後期の鉄製品(左の2ヶは4号住居跡・右端は7号住居跡。左は鉄製釣針・中央は刺突具・右は鉄鍔)

5. 6号住居跡出土の石包丁



5

出土土器
<弥生時代後期>

1、4号住居跡

2～5、5号住居跡

6～8、6号住居跡

(4は埋甕炉で、逆位に
埋められていた。)



1



2



3



4



5



6



7



8

出土土器
<弥生時代後期>

3. 5号住居跡
1・2. 6号住居跡
4. 9号住居跡
5. 7号住居跡
6・7. 14号住居跡

1

2

3

4

5

6

7

8

9

8・9. 15号住居跡

(9は埋廻戸で、逆位に
埋められていた。)

出土土器
<弥生時代後期>

1・2. 15号住居跡



1

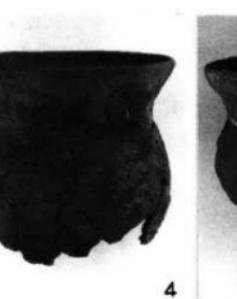


2

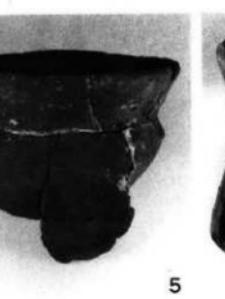


3

3. 16号住居跡



4



5



6

4～6. 17号住居跡

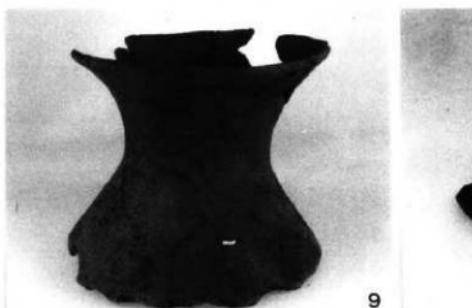


7

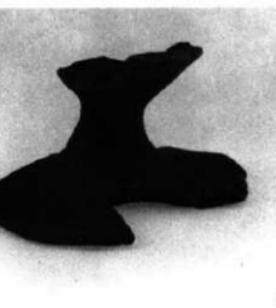


8

7～9. 18号住居跡



9



10

(7は埋甕炉に使用されていた壺の上半部で、逆位に埋められていた。)

出土土器
<弥生時代後期>

3. 15号住居跡

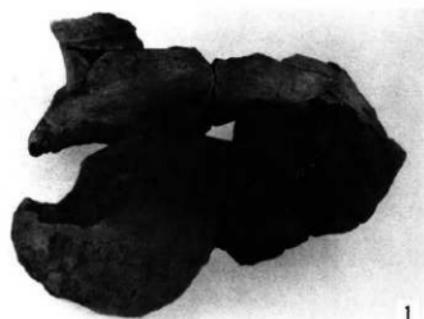
1. 19号住居跡

2・4～6. 21号住居跡

7. 23号住居跡

8～10. 24号住居跡

(6・7は埋甕炉で両方とも、逆位に埋められていた。)



1



2



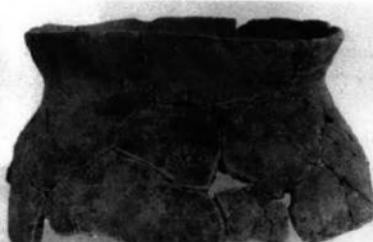
3



4



5



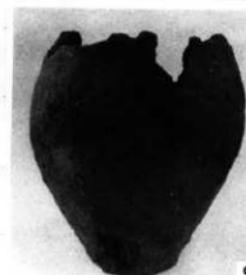
6



7



8



9



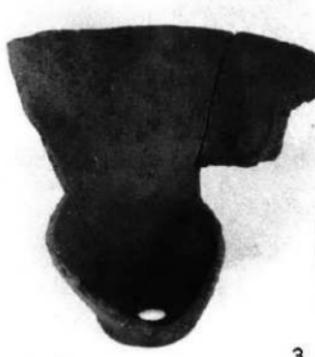
10



1



2



3

出土土器
<弥生時代後期>

1. 24号住居跡

2・3・5. 27号住居跡

4. 26号住居跡

6. 28号住居跡

7・8. 30号住居跡

9. 31号住居跡

(6は埋甕炉で、正位に
埋められていた。)

<6は、弥生時代中期後
半の土器>



4



5



6



7



8



9

出土土器
<弥生時代後期>

1 ~ 4 . 31号住居跡

5 ~ 7 . 32号住居跡

8 • 9 . 34号住居跡



1



2



3



4



5



6



7



8



9

出土土器
<弥生時代後期>

1 ~ 3. 31号住居跡

4. 5. 32号住居跡

6. 33号住居跡

7 ~ 8. 34号住居跡

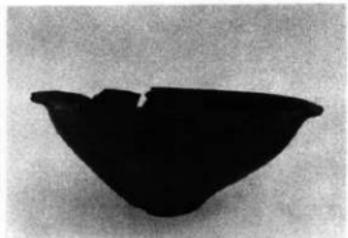
9. 35号住居跡

(1は、炉の横（掘り方内）に置かれた状態で出土した土器で、良く焼けており、火種の保存用に使用された可能性がある。
)

<9は、弥生時代中期前半の土器>



1



2



3



4



5



6



7



8



9

写真40



1. 第1次開始式

2. Ⅱ区造横掘り下げ
作業風景

3. Ⅰ区クレーンによる
写真測図風景

4. Ⅲ区南側
浚出作業風景

5. Ⅳ区土壌下層調査
グリッド掘り下げ作
業風景

6. Ⅲ区南側造構
掘り下げ作業風景

7. Ⅲ区北側造構
掘り下げ作業風景

8. 作業員記念写真

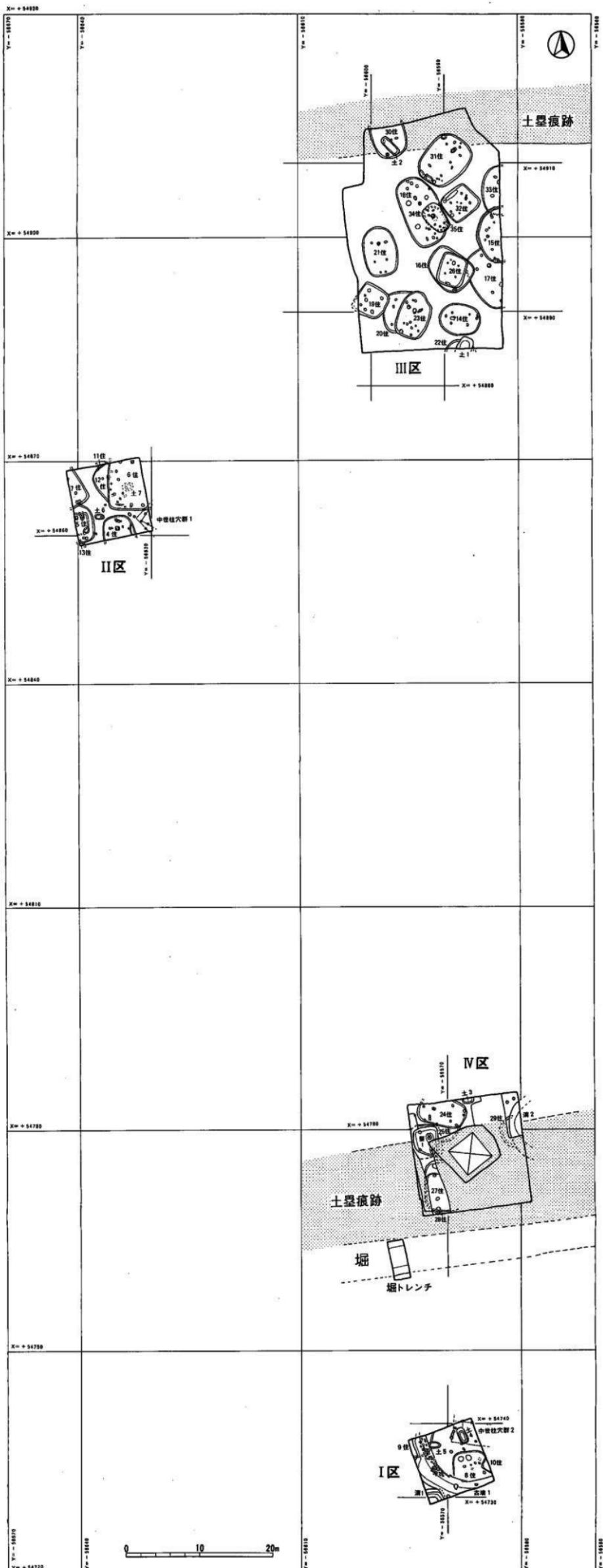
大町市埋蔵文化財調査報告書19集
長野県大町市埋蔵文化財包蔵地緊急発掘報告書

古 城

平成3年3月20日 印刷
平成3年3月29日 発行

発行 長野県大町市大字大町3887
大町市教育委員会

印刷 長野県大町市大字大町3871-1
北辰印刷



付図 古城遺跡 遺構全体図 (1:400)

